

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-12-09

機密送第三号

(発行年 / Year)

1910

秘

機密呈第三号

明治二十九年法律第八十九號民法第一編二編
及第三編之施行ニ際シ從來之法律以憲法上之十六
條規定ニ依リ遵由ノ効力ヲ有スル法令如麥
入ル各項心付狀ノ、御通報可致旨御照會又無領承
差當ル心付狀事項別紙ニ記載致シ特此申上
於廉肯之狀ハ、要之底通報可致性也

明治三十年五月十日

外務大臣相馬大隈重信

法務調査會副總裁清國奎吾謹

民法第三條ニ依レバ外國人ハ條約又ハ法令ニ禁止アル場合ノ外
私權ヲ享有スルカ故ニ民法ヲ實施スルト同時ニ外國人ニ禁止ス
松屋ハ條約又ハ法令ヲ以テ文ヲ規定ヒサルヘカラス然ニ從未ノ法令
ハ外國人ニ禁止スルキ私權ヲ除ニモ明言未久且ツ從未條約齊備ノ精
神ニ依レバ外國人ニ享有スルコトヲ得ヘキ私權ハ「ミ条約ヲ以テ之ヲ
規定シ条約上ニ認許サル私權ハ即キ外國人ニ享有スルコトヲ得サ
ルモノトセリ現今外國人ノ帝國臣民ト同シク商事會社ノ設立不ルノ
法令無ク且ツ条約上特ニセキノ禁止スルノ明文無キニ拘ラス外國人
カ比考ノ私權ヲ享有スルコトヲ得サル所以ハ唯タ条約上又ヲ認許
ルノ明文無カ爲メテモ而シテ現行条約於ラ外國人ニ認許セル私權
ノ範囲ノ額ル狹シニモテ或ハ敢テ又ラ禁止スルノ必要無キ私權ヲ
テ尚文認許ヒサスモノ無キニモ非スド羅于苟モ領事ヲ裁判權ノ利
益ヲ享有スル限ハ現行条約ノ私權ニ享有ノ制限ノ延續スルヲ要ス
誠ニ附正条内ヲ實施シ法權ヲ因襲シタル曉ニ於テハ民法才二全ノ
精神ニ從ヒ外國人ニ条約ニ認許ヒサヘ私權ニテモ苟モ法令ニ禁止
セサル限ハ帝國臣民ト均シノク之ヲ享有スルコトヲ得ヘシト解釋ヌル
ヲ以テ正當トスド羅チ民法實施ノ期日ヨリ新条約實施ノ期日ニ
至ル又テ一年内外ノ期間ハ依然現行条約ノ制限ヲ維持スル
ニ非スニハ一方ニ於テ領事裁判權ノ利益ヲ有スルニモ拘ラス他方ニ於テ
現行条約ノ認許セサル私權ヲ享有スルニ至ルノ事無シトセサルナリ
要ニテ然ラハ民法ノ施行法ヲ制定スルニ當リ新旧条約ト民法第二
条トヲ調和スルキ經過的規定ヲ設ケサルヘカラス而シテ之ヲ調和スル
方針ハニシテ是ヲサルニシト雖モ改正条約ノ實施期日ニ至ルニテ
民法第二条ヲ宣施セサルコトヲ規定シ若クハ条約ニ規定セサル
私權ハ即キ民法第二条ニ所謂条約ニ禁止セル私權ヲフトヲ規
定スルヲ以テ妥當ナリト思考ス